

会 議 録

会議名 (審議会名)		第42回相模原市地域包括支援センター運営協議会		
事務局 (担当課)		地域包括ケア推進課 電話042-769-9231 (直通)		
開催日時		令和5年7月27日(木) 午前10時30分～正午		
開催場所		相模原市役所 第3委員会室		
出席者	委員	18人(別紙のとおり)		
	事務局	10人(地域包括ケア推進課長ほか9人)		
	その他			
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 地域包括支援センターの運営状況等について <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の業務実績について ・令和4年度事業評価及び令和5年度事業計画について ・令和4年度収支決算及び令和5年度収支予算について ・職員配置状況等について ・介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメントの公正・中立性評価について (2) 地域づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議地域づくり部会の令和4年度取組結果及び令和5年度取組について ・相模原市地域おでかけサポート推進事業について ・シニアサポート活動及び担い手の育成に関する取組状況について ・第9期高齢者保健福祉計画の策定について 3 報 告 (1) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法について 4 閉 会		

審 議 経 過

1 開会

2 議題

事務局より資料に基づき説明を行った。

(1) 地域包括支援センター運営状況等について

- ・令和4年度の業務実績について

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(穂刈委員) 地域ケア会議地域づくり部会の開催をしている地域包括支援センター(以下「包括」という。)に負担がかかっている。地域づくり部会では、地域課題に関して情報共有や共通認識を図り、課題解決や関係者・関係機関が連携することにより地域づくりを行っている。そうしたことを踏まえ、地区社会福祉協議会(以下「地区社協」という。)の体制を強化して、地区社協にも地域づくりの業務を行ってほしい。

(事務局) 地域づくり部会では、必須団体として4団体を定めており、その1つが地区社協です。地域づくり部会の構成委員として参画いただき、しっかり連携しながら地域づくりを引き続き進めてまいります。また、地域づくり部会の運営については、市社会福祉協議会(以下「市社協」という。)にも委託をしており、市社協にも地域づくり部会の運営を協力いただきながら包括、市社協、地区社協、その他関係団体と連携しながら進めてまいります。今後も、いただいた御意見も踏まえながら地域一体となって地域づくり部会を進めてまいります。

(水上会長) 持続して継続していける体制でお願いしたい、

- ・令和4年度事業評価及び令和5年度事業計画について

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(栗田委員) 自己評価となるとS評価やA評価が多くなる傾向となる。今後として、第三者である地域のサロン活動団体、地区社協、ボランティア団体などからの評価を追加する考えはあるか。

(事務局) 以前は外部評価として、有識者に第三者評価としての意見をいただいております。そうした経緯を踏まえ、市で評価をする体制の整備やノウハウを培い、評価を行っております。令和4年度は、5月と12月に包括とヒアリングを行い、適切な自己評価に繋がるように取り組んでまいりました。現時点では、このような体制での評価を継続して、適正な運営がなされるよう引き続き取り組んでまいります。

- ・令和4年度収支決算及び令和5年度収支予算について

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(坂本委員) 市は、包括職員の福利厚生がきちんと整っているか監査をしているか。

(事務局) 市としては包括職員の処遇の改善のため処遇改善加算を設けており、地域包括支援センター運営事業業務委託料に一人あたり30万円を上乗せしております。具

体的にどのような処遇改善に取り組んでいるのか確認をしており、適切な処遇改善や職場環境の改善に繋がるような働きかけを行っております。

(坂本委員) 包括職員は、訪問をするとき包括のネームが入ったジャンパーなどが必要だが、真夏の炎天下の中ではジャンパーを着用することは暑いため、網目で薄いベストがあれば少し楽になるのではないか。また、電動自転車ではなく自転車を配備している包括もあるので、職員全員が電動自転車を使えるようにすれば少し楽になると思う。真冬の場合は、防寒具の購入などの防寒対策を処遇改善加算で実施できるよう、そのような使途で処遇改善加算を活用しているか確認をしてもらいたい。運営法人に任せきりではなく、監査をしてもらいたい。

(事務局) 運営法人の理事長等の代表者とヒアリングを原則年1回実施している。そのような場を活用して、包括職員の処遇改善に向けて引き続き取り組んでまいります。

・職員配置状況等について

議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(穂刈委員) 令和4年度の退職者は26名と離職者が多い。退職理由は様々で、離職防止の対応として令和3年度から研修を実施しているとのことだが、研修の実施を委託しているのか。また、研修を実施した結果、令和4年度は令和3年度と比較し改善したのかを伺いたい。なお、処遇改善加算などの対応は引き続き行ってもらいたい。

(事務局) 定着率改善に向け、アサーティブコミュニケーションというテーマで講師を外部委託し、令和4年2月に実施いたしました。また、運営法人も定着率改善に取り組んでいきたいという意見があったことから、参加者は包括長だけでなく、運営法人の職員にも参加していただき、令和4年度も継続して定着率改善に向けた研修を実施しております。講師は、株式会社IDOという介護人材の研修を専門的に行っている会社に依頼し、実施いたしました。引き続き欠員が生じているという状態ですが、このような取組や処遇改善加算などの手法を活用しながら、様々な機会を捉えて定着率改善に向けて働きかけをしてまいります。

(坂本委員) 包括は地域にとって無くてはならない存在で、これからもっと重要になってくるが、包括職員は入職しても1年未満で辞めてしまう状況がある。辞めてしまう理由としては、仕事内容が厳しいことに加えて、地域全体から見ると社会的地位が低すぎると感じている。そこで、行政や地域がバックアップをして、誇りを持って包括の仕事に取り組んでもらえるような施策が出来ると良いと考えるため、行政には検討をしてもらいたい。

(事務局) 包括の認知度や位置づけについては御指摘のとおり改善が必要と考えております。まずは包括の仕事の周知に関する取組として、令和3年度から介護需要が高まる手前の77歳の方を対象に包括を御案内するはがきを送付いたしました。また、検討中ではございますが、市ホームページの活用やイベントなどを通して包括業務の周知を図りながら、包括職員のモチベーション向上にも繋がるような取組を進めてまいります。

(水上会長) 本人はやる気があり働こうと思っけていても、入職した組織で上手くいかないとミスマッチも生じている可能性がある。退職者へのヒアリングなどをよく行い、本人に合ったところで働けるような環境づくりを行うことが良いと思う。

- ・介護予防支援業務及び介護予防ケアマネジメントの公正・中立性評価について意見はなく、議題のとおり承認された。

(2) 地域づくりについて

- ・地域ケア会議地域づくり部会の令和4年度取組結果及び令和5年度取組について意見はなく、議題のとおり承認された。
- ・相模原市地域おでかけサポート推進事業について議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(穂刈委員) すでに本事業を利用している団体から、本事業の制度設計は現場にとって使い勝手が良い制度になっているという話を聞いた。4月からスタートした事業とのことだが、現時点で利用している団体はどのくらいあるのか伺いたい。また、本事業の予算規模はどうなっているのか、そして本事業はどのくらいの期間行う予定なのか継続性についても伺いたい。

(事務局) 現在の補助金に関する申請は、3団体から申請を受けております。申請に向けて試行運転など具体的な活動をされており、調整を行っている団体は7団体です。現状では、少なくとも10団体が申請を行う見込みとなっております。加えて、現時点では申請の段階には至っておりませんが、本事業について相談があり、地域に出向いて制度の説明を行っている地区が数か所ございます。予算については、補助金としては12団体を想定し、1団体あたり50万円で合計600万円、担い手養成講座の開催やアドバイザー派遣の委託料として300万円、総計900万円を今年度の予算として計上しております。移動支援の取組は、持続的な取組が大変重要となるため、市としても本事業を継続していきながら、よりよい事業となるように地域の方と共に取組を進めてまいりたいと考えております。

- ・シニアサポート活動及び担い手の育成に関する取組状況について意見はなく、議題のとおり承認された。

- ・第9期高齢者保健福祉計画の策定について議題のとおり承認された。意見は次のとおり。

(坂本委員) 現在、75歳以上の人口が12万人程度おり、そのうち要支援・要介護状態に移行している方が4万人、残り予備軍として約8万人いる。要介護の状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けるというのが市のコンセプトになっているため、第10期高齢者保健福祉計画期間ではもう一步踏み込んだマネジメントプランを作成してもらいたい。特に老老介護は避けられない問題になってくるため、住み慣れた地域で最後まで暮らすためにというプランを元気なうちから市民へ示すことも必要になっ

てくると思う。その窓口は包括であり、包括が窓口となって様々な機関などに繋ぐという冊子などを作って、高齢者を対象に第10期では配ってほしい。

(事務局) 高齢者の方が住み慣れた地域でどうやって暮らしていけるのかというプランとしては、今回市としては介護予防の充実をさせていただき、住み慣れた地域で暮らしていくためにどのようなことに取り組んでいけば良いのかということについても第9期計画期間中で少しずつ具体的にしていきたいと考えておりますので、様々な御意見をいただきながら進めさせていただきます。

(水上会長) 訪問診療を行っている中で、特に老老介護の方や独居の方を含めて自宅で生活を維持するための支援を行いたいという気持ちはあるが、本人は施設に入りたくないと自宅での生活を希望しても、医療面だけ見ても、自宅での生活継続が難しい場面が多々あります。今回、オープンハウスやパブリックコメントを実施しているようだが、実際に市民がどういったことを希望しているのかということについても意見として広く提示させていただき、どういった意見があり、その意見に対し市がどのように市民に寄り添っていくのか方向性を出していくのは大事だと思う。本日も委員から様々な意見が出ているが、このような生の資料を御提示いただくと参考になる。

3 報告

・事務局より資料に基づき報告を行った。意見等は次のとおり。

(佐藤委員) 「第1章総則3基本理念③社会参加の機会確保」、「第3章基本的施策3認知症の人の社会参加の機会の確保等②雇用の継続」、「4認知症の人の意思決定の支援、権利利益の保護」ということが示されているのは、認知症の方だけでなく高齢者や障害者の方にとっても重要なことと思う。基本法の公布を機会に、具体的に市としてどのように周知していくか高齢者保健福祉計画などに反映してほしいと思う。認知症かつ要介護の状態となった場合、医療機関への受診が難しい状況があるが、認知症初期集中支援チームを活用することは出来ないのか

(事務局) 活用することは可能で、認知症の方だけでなく、医療機関を受診することが出来ていない方や、介護等にも繋がっていないような方を認知症初期集中支援チームの中で、保健師などが訪問して本人の状態像を診るということも可能です。一方で、認知症初期集中支援チームだけでなく、内科を専門にする医師のアプローチも可能です。本市の実情としては認知症の専門医が少ないということも課題としてありますが、そういった部分を内科の医師が認知症サポート医として活動をしていただきフォローしていただいております。様々な手立てが考えられるので、まずは包括に相談をしていただきたいと存じます。

(水上会長) 「アプローチ事業」として医師が直接訪問をする場合もある。認知症に関わらず、「社会生活から隔離させない、みんなで住んでいく」といった事業を市では行っている。周知が足りていない部分もあるため、引き続き周知活動も併せて行っていきたい。

(幡野委員) 包括の職員への処遇改善などの御意見があったが、大切な視点だと感じた。支援する側から先細っていくという社会状況があるが、一方的に支援する側される側と分けていくのではなく支え合うという形で、出来る限りのことをみんなが行え

る社会になればいいなと感じている。また、認知症になってから、その方の自己決定支援を考えるのではなく、日頃から、または若いうちから、自己決定ということに対して表明していくというようなシステムも必要だと思う。人生会議のような形式である程度の年齢からそのようなことに向き合うことも大切だと思う。

4 閉会

以 上

相模原市地域包括支援センター運営協議会委員名簿 令和5年7月27日開催

No.	氏名	ふりがな	選出団体等	出欠	備考
1	石井 和子	いしい かずこ	相模原市民生委員児童委員協議会	出席	
2	石川 寿美子	いしかわ すみこ	相模原市介護老人保健施設協議会	出席	
3	梶山 和美	かじやま かずみ	神奈川県看護協会相模原支部	出席	
4	栗田 愛子	くりた あいこ	公募市民	出席	
5	黒沢 慎五	くろさわ しんご	さがみはら介護支援専門員の会	欠席	
6	小林 輝明	こばやし てるあき	相模原市社会福祉協議会	欠席	
7	小林 立	こばやし りゅう	相模原市高齢者福祉施設協議会	出席	
8	坂本 洋三	さかもと ようぞう	相模原市地区社会福祉協議会	出席	
9	佐藤 優子	さとう ゆうこ	公募市民	出席	
10	澤田 弘之	さわだ ひろゆき	相模原市薬剤師会	出席	
11	田中 雄一郎	たなか ゆういちろう	相模原市歯科医師会	出席	
12	畠山 秀美	はたけやま ひでみ	相模原市老人クラブ連合会	出席	
13	幡野 公香	はたの きみか	神奈川県社会福祉士会相模原支部	出席	
14	原田 裕也	はらだ ゆうや	神奈川県弁護士会相模原支部	出席	
15	久松 信夫	ひしまつ のぶお	学識経験者	出席	副会長
16	舟戸 麻衣	ふなど まい	日本公認会計士協会神奈川県会	出席	
17	古木 玲子	ふるき れいこ	公募市民	出席	
18	穂苅 健二	ほかり けんじ	相模原市自治会連合会	出席	
19	水上 潤哉	みずかみ じゅんや	相模原市医師会	出席	会長
20	本村 直子	もとむら なおこ	友知草の会	出席	

五十音順